

## 九四 干支から採つた名

昔の人は多く干支に重點を置き、稗史や劇などにも何の年何の日何の刻生れの、女の血をどうとかするといふやうなことがある。近世歌人で東京花雨吟社の創設者水原史郎は號を三酉といつた、天保八年八月四日の生れである、八年の干支は丁酉、八月は己酉、四日も己酉である。福井藩の瓜生寅は、大藏省に出仕し後民間に下つた印紙制の創見者であるが、天保十三年壬寅の生れで、名も寅であり三寅と號したるを見れば、その生月日刻など寅であつたであらう。貴族院議員で多くの履歴を有する尾崎三良男は、四寅居士又四虎山人と號した、天保十三年正月二十一日生れとある、十三年は壬寅、正月も壬寅であるが、二十一日は辛未である、生れた刻が寅としても、これでは四寅とはいへない、二十一日は届出の都合か何かで變更したのか、十七日ならば丙寅である。江戸俳壇の雄夜雪庵四世金羅は四寅童子と號した、文政十三年一月二十一日生れ、十三年は庚寅、正月は戊寅であるが、これもまた前記四寅居士と同じく、二十一日は

壬子であつて寅ではない、何れ寅刻生れなのではあらうが、日の一點が合致しない。陸奥宗光は七月七日生れなので幼名牛麿と稱したとのこと、これは岡崎暁香翁の直話である、なほこの剃刀大臣は、明治三十年薨去したが、人名辭書類の多くが二十九年となつてゐる。幕末書道界にその人ありと知られた市川米庵の諱は三亥である、安永八年九月六日の生れであるが、八年は己亥、六日は丁亥に該當するも、九月は甲戌であつて亥ではない、人名辭書は亥月などゝ書いてゐるが誤つてゐる、多分亥刻生れで三亥と稱したのであらう、十月は乙亥であるから、もう一ヶ月後に生れたら四亥となるが、しがいとなつては亥に骨が添ふと三亥先生苦笑したかどうだか。